

第2回文化マスタープラン市民検討会議 議事録

平成 29 年 10 月 5 日（木） 午後 6 時～8 時

於：長久手市文化の家 企画室 A・B

1. 勉強会「文化マスタープランについて」

文化マスタープランについて、岡崎市民会館芸術監督の清水裕之氏による講演。

【質疑】

- ・ 文化の家が当初のマスタープランのベースになっている。第3次のマスタープランは文化の家にとらわれなくていい。
- ・ 社会包摂の考え方をすれば、他の課のことも含めてマスタープランを考えていく必要がある。第2次のマスタープランまでは縦割りの考え方。現在、市長も総合的にやっているとやっている。市民が関わっているからこそ、市長に直接訴えることもできる。
- ・ 長久手もだんだん高齢化していく。これからは福祉の問題も考えなければいけない。
- ・ 長久手には大学生がたくさんいるが、その多くは4年後にはまちを去ってしまう。学生に何ができるかを考えた時、フットワークの軽さを生かしているいろんな場で活動することが重要。経験を通して感じた問題を訴えかけてほしい。

2. 文化マスタープラン策定について

長久手市の概況、文化芸術に関する現状と課題、市民団体へのアンケート結果について、文化の家より説明。

【長久手市の概況】

- ・ 30,40代が多い。
- ・ 共同住宅に住む人が多く、1人暮らしの割合が大きい。
- ・ 名古屋市のベッドタウンになっている。

【文化芸術に関する現状と課題】

- ・ 音楽に偏った活動が多い。今後は演劇や美術も。
- ・ 子育て世代が中心のため、中高生向けの企画を充実させたい。
- ・ アートスクールの受講率は 90%以上をキープしているが、初心者向けにとどまってお
り、マスタープランに掲げていた目標を達成できていない。
- ・ 現在、大学連携基本計画（市内4大学）の策定中。

【市民団体アンケート】

- ・ 活動を行う上での課題：「新たなメンバーの確保」や「メンバーの高齢化」。
- ・ 市民団体が、市民同士が知り合い協力する場になっているか、という設問に対してネガティブな回答が多い。
- ・ 文化芸術振興のために力を入れるべきものとしては、「質の高い公演・展示」や、「いろいろな分野の鑑賞」といった回答が多い。また、「子どもが文化芸術を体験できること」や、「身近で文化活動ができる場をつくること」にも回答が集まっている。
- ・ 文化芸術を活用すべき分野としては、教育や福祉といった回答が多い。

【意見交換】

- ・ 今回の資料をもとに、できているものとできていないものを整理し、自分たちの実感をもとに考えなおす。
- ・ 現在のマスタープランは、文化の家の事業とわかれていて、基本理念などが2回でてる。もう少しすっきりさせたい。
- ・ 東日本大震災の経験から得られた文化の役割についても、マスタープランに含ませていきたい。
- ・ まち全体や、文化の家の活動について、できていないものを整理する。努力が足りないのか、できていなくても仕方ないのかを分ける。
- ・ マスタープランについて、他の課とも調整会議を行っている。必要であれば、手続きをして他の課の職員を呼ぶことも可能。

3. その他

【世話人会について】

- ・ メンバー：A,B,D
- ・ 毎回の会議後、世話人会で話し合い、次回の会議の前に全員に連絡を行う。

【次回】

第3回 10月17日（火） 18時～20時

文カフェのように少人数のグループを組んで、ブレインストーミングを行う。

第4回 10月31日（火） 18時～20時